

もう少し教えて！

卒業アルバムのできるまで

学生みなさんが卒業するときに贈られる「卒業アルバム」。一生の思い出がどのように作られているのか、年間の流れでまとめてみました！



先生たちと打ち合わせ。1年間の学校行事の日程などを確認します。



5月からは運動会や宿泊行事などが盛りだくさん！常に動き回ります。



撮影が入らない日は、大量のデータを整理。明るさなどを補正して、デザインを考えます。



秋は撮影が多く、その合間にデータを印刷工場へ。1年で最も忙しい季節です。



学校にもページの確認をしてもらい、ここからは修正作業です。



印刷の最終確認をして、製本。アルバムの形に仕上げていきます。



一冊ずつ検品をして完成！みんなの手に卒業アルバムが届きます。

さらによくなる！

プロが教える撮影のコツ

自分が使うカメラの操作方法と、基本的な機能を覚えておきましょう。時にシャッターチャンスは瞬時です。撮りたい瞬間を逃さないためにも、カメラの扱いに慣れておくといいですよ。



より良い撮影ポジションがないか探してみましょう。近づいたり、離れたりと、斜めからカメラを向けてみたり。どこから撮るかで写真の見え方は変わります。とっさに動けるフットワークが大切です。



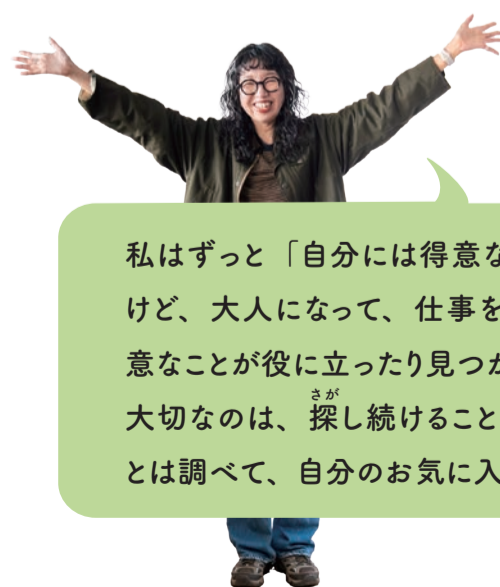
友達との思い出を写真で残すなら、「いつ」「どこに」行ったときの写真なのか分かるように撮影するのがおすすめ。被写体（撮影する対象）から少し距離を取り、背景まで映るよう気をつけてみて。

写真提供：穴澤さん

カメラ機材クイズの答え

- シャッターボタン (A) ……撮る瞬間だけひらき、光を入れるまぶたのような役割
- ファインダー (F) ……写真にうつる場所をのぞいて構図を決めること
- レンズ (E) ……光を集めて、写真を作るガラスの目
- 明るさ調整ボタン (C) ……露出や感度 (ISO) といい、明るくしたり暗くしたりする

- モニター (G) ……撮った写真をその場で見る画面
- 三脚 (H) ……カメラを動かさないように支える足
- フラッシュ取り付け口 (B) ……光を足したいときにつける
- ピント目盛 (D) ……どこにピントを合わせるかを絞る目安



これから大人になって夢をカタチにするみなさんへ

私はずっと「自分には得意なことがない」と思っていたけど、大人になって、仕事を始めてから好きなことや得意なことが役に立ったり見つかることもあるんです！大切なのは、探し続けること。少しでも興味がわいたことは調べて、自分のお気に入りのを増やしていこう！

穴澤さんはココにいます！

株式会社 CREATE

株式会社 CREATE
埼玉県北葛飾郡杉戸町杉戸 5-1-1
TEL : 0480-31-4530



主に学校と作業場での仕事メインですが、相棒ともいえる愛車と愛犬のエマちゃんを連れて、出張撮影に出かけることも。

はたらく人の心が見える

しごとのこころ

Vol.5



今このころ

価値を一瞬を永遠の瞬間に変える

株式会社 CREATE
代表取締役 / フォトグラファー
穴澤 真奈美 さん

本紙は、杉戸町で活躍している素敵な方を紹介する情報紙です。普段は見えない現場の様子や聞くことができないところの部分にクローズアップし、あなたの未来へつなぐお手伝いをします！

未来につなぐ杉戸のコト / スギトゴト

写真の価値ってなあに？

杉戸町の小学校を中心に、学校から依頼を受けて卒業アルバムを制作している穴澤さん。フォトグラファー（カメラマン）であり、会社の代表でもある穴澤さんが考える「写真の価値」とはどんなものなのか、お話を聞きました。

【お話の人】
フォトグラファー
あなざわ まなみ
穴澤 真奈美 さん
(株式会社 CREATE 代表取締役)



写真は好きですか？

カメラマンになってからのこと

卒業アルバムづくりの大変さ

卒業アルバムの制作では、スケジュールの管理がとても大切です。現在、穴澤さんが担当している学校は全部で23校。運動会などの学校行事が重なる時期は、一人ですべてを撮影することができないので、他のカメラマンにも撮影を頼みます。日程を調整して、どんな写真を撮ってほしいか伝え、撮影された写真データを確認。忙しい学校の先生たちと連絡を取るのも大変なのだそう。

見た人の心を動かす写真を撮りたい！

31歳のとき、仕事を1週間休んでニュージーランドを訪れます。旅先で撮った写真を見返すと、今まで味わったことのないワクワクした気持ちになったそう。カメラをもっと使いこなすために、独学で勉強を始めます。そんなとき、35mmフィルムで撮影された映画を観て、そのあまりの美しさに感動。同時に、「私もこんなふうに関心を動かす写真を撮りたい！」。穴澤さんの中で、写真に対する新たな向き合い方が生まれました。

愛犬と一緒に旅をしながら撮影する日々

そのあとフレンチブルドッグのエマちゃんを家族に迎えてからは、穴澤さんの働き方に変化が。仕事以外の時間をつくれたことで心に余裕が生まれ、SNSではエマちゃんの写真をきっかけにペット撮影の依頼が増えました。現在はエマちゃんとともに車で旅をしながら人や犬を撮影するなど、活動の幅をさらに広げています。カメラマンとして、会社の代表として、穴澤さんはこれからも写真の価値をたくさんの人に伝えていきます。

お話のまとめ

カメラやカメラマンという仕事が生近にあったからこそ、特別な「あこがれ」につながらなかったという穴澤さん。一方で、海外や外国語が好きだった彼女は、働いていた英会話スクールでイギリス人カメラマンと出会い、その頃から写真を身近に感じはじめたそうです。好きなことや興味は、すぐに仕事にならなくても、あとから大切な力になることがあります。「人の心を動かす写真を撮りたい」、その「こころ」から生まれる穴澤さんの写真に、これからも期待がふくらみます。

やってみよう！ カメラ機材クイズ！

大きな一眼レフカメラ。スマートフォンのカメラとちがって、たくさんの機能や名前がそれぞれについています。さて、どれがどの部分かわかるかな？

- シャッターボタン ()
- ファインダー ()
- レンズ ()
- 明るさ調整ボタン ()
- モニター ()
- 三脚 ()
- フラッシュ取り付け口 ()
- ピント目盛 ()

※カメラの製造メーカーによって、呼び方や取り付け位置が異なる場合もあります。



家の仕事を本格的に手伝うことに

カメラマンである父親の仕事を手伝い、撮影現場に一緒に行ったり、卒業アルバムの制作にも少しずつ関わるようになりました。ときには現場で写真を撮ることも。父親のプロの仕事ぶりに感動する一方で、「大変な仕事だな」と感じたそう。高校を卒業した後は、専門学校を経て、英会話スクールに就職。23歳のときに、父親の入院をきっかけに家業である学校の卒業アルバム制作を本格的に手伝うことになりました。

父の背中を見て育った穴澤さんが、思いを受け継ぎ、学校を回る様子。

その場の空気ごと写真に収めることを意識しています

1 海外の文化に夢中になった子ども時代

子どものころは内気な性格だったという穴澤さん。家ではよく話すものの、学校では人のうしろに隠れていたそうです。小学2年生のとき、家族でディズニーランドに行き、すっかり夢中に。そして中学2年生の冬に映画『ハリーポッター』を観たことで、今度は舞台であるイギリスに興味を持ちます。「いつか海外に行きたい！」。大の苦手だった英語に積極的に取り組むようになり、いつの間にか学年で1番を取るほど得意科目になっていました。

家族で何度も訪れたディズニーランド。大好きなシーズンはクリスマス！

2 学校に行きたくない、でも夢はあきらめたくない

穴澤さんが写真とつながりを持ったのは、高校生のとき。第一志望の学校に進学が叶わなかったため、二次募集のあった高校に入学しました。ところが、思っていた学校生活とはほど遠い毎日に耐えられなくなり、高校1年生で不登校に。学校には行きたくないけれど、海外に行く夢はあきらめられない。悩んでいると、父親から「学校に行かない日は仕事を手伝いなさい」と声をかけられます。こうしてカメラマンの仕事を手伝う日々が始まりました。

